全校集会　学校長の話（2026 年 11 月 10 日）

- 今日は少し時間が押していますが、体育大会の話をしたいと思います。天候に振り回された体育大会でしたが、無事に開催できて良かったと思っています。残念ながら、私自身は最後までいることができませんでした。午後からどうしても出かけなければならない出張がありまして、できれば皆さんと同じように最後まで過ごしたかったのですが・・・。

- 開会式でも話をしましたが、延期が決まったとき、「体育大会は、短縮版ではなく、フルバージョンで行いたいと思います」と話しました。そのとき、わっと歓声と拍手が起こったのをよく覚えています。その様子を見て、みんな本当に楽しみにしていたんだな、と思いました。
  そして実際の体育大会でも、みんなが一生懸命に取り組み、応援をし、競技も片付けもしっかりやってくれました。本当にありがとうございました。

- ここで話が変わりますが、昨日から、トルコという国で「COP31」という国際会議が開かれています。ニュースで見た人もいるかと思います。何の会議かというと、地球温暖化や海面上昇、気候変動などについて、これからどうしていこうかということを、世界中の代表が集まって話し合う会議です。

- ここで驚いたのは、**この会議の決め事は多数決をしない**、ということです。それぞれの国が自分たちの意見を持ち、話し合い、議論をして、最終的な着地点を見つけていく。どうすればすべての国が幸せになっていくだろうか、ということを話し合っているのだと思います。

- もちろん、すべての国が納得するということはないと思いますが、小さな国、たとえば海面上昇によって島が沈み、国がなくなってしまうという国もありますね。そういう国々から、これからもっと産業を発展させたい、そのためにどうしても二酸化炭素の排出が必要だという大きな国まで、さまざまな国が話し合って、結論を出していくわけです。

- そうすることで、小さな国の意見も、大きな国と同じように聞いてもらえます。たとえ結果的に違うところに着地したとしても、「自分たちの意見も聞いてもらえた」ということが残る。

- ここで、先ほど僕は「体育大会をみんなが楽しみにしているのが分かりました」と言いましたが、果たして本当にそうだったのでしょうか。もしかすると、運動が苦手で、憂鬱だなと思っていた人もいるかもしれません。もっと言えば、中止になったほうがいいのではないかと思った人もいるかもしれません。でも、思うことは自由ですし、人それぞれの意見があるのですから、僕はそれでいいと思います。

- 要するに、**声の大きい人の陰で、小さい声が隠れていないか**、ということなんです。僕は多数決を否定しているわけではありません。多数決で物事を決めなければ前に進めないこともたくさんあります。そうだとしても、小さい声が無視されていないか、ということです。みんなが、自分と違う意見にも、しっかり耳を傾けていたか。それを問いたいと思います。

- これは僕自身にも言えることです。校長として、大多数の意見ばかりを聞いていないか。大きい声のほうが優れていると思っていないか。まだ聞こえていない声があるということを、これからも大切にしていきたい。昨日、そんなことを思いながらニュースを見ていました。

- 体育大会での皆さんの大きな声援は、本当に素晴らしかったです。体育大会が終わりました。これからは、教室の中の小さな声、そういう意見も大事にして、いつも言っている「明日も来たくなる学校」を、これからもつくっていってほしいと思います。いろいろな意見があっていいのですから、それを認め合う学校文化を進めていってください。